



つい最近図書館に「二十世紀かく語りき」という本が入りました。今回はこの本の中から二十世紀にどんなことがあり、どんな言葉が発せられたのかを沢山ある中から5つにしぼり紹介してみようということになりました。

●戦場ではなく
茶の間で敗れた

この言葉は一九六四年から始まつたベトナム戦争の時に言われたものである。この戦争が先の第一次、第二次の戦争とちがつていたところは、世界中のマスコミが事細かにその模様を伝えたことだ。焼けた服を脱ぎすぎて全裸になつ

●元始、女性は太陽だった
一九一一年（明治四十四年）平塚らいちょうを中心とした女性ばかりによる文芸誌『青輔』が発刊された。その創刊の辞がこれであった。まだこの頃は女性の人権が確立していない、「良妻賢母」を女性の唯一の美德と見るような当時の風潮に新しい女性の生き方を示し、衝撃を与えた。

●恥ずかしながら
帰つてきました

一九七二年（昭和四十七年）に召集をうけてから二十八年間ジヤングルの中で生活していた。この言葉は高度経済成長によつて飽食に慣れた日本人に大きな衝撃を与えた。それから二年後に、三十年間「戦争」を続けていたもう一人の元日本軍人、小野田寛郎さんが帰つてきた。彼は上官の「任務解除」の命令がないと帰れないといった。

言葉で

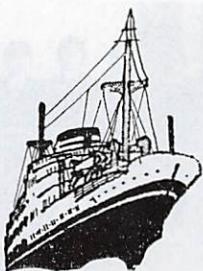
振り返る

100年

これがいい
20世紀の
名言

図書館だより

九里学園高等学校会員
図書委員会
印刷(株)川島印刷
TEL 21-5511(代)



●無謀な暴走だった

この言葉は、かの有名なタク号にはもう一つの悲劇があった。助かった乗客の中に日本人の男性、細野正文がいた。彼は「日本人の恥になるまじき」と船と運命を共にする事を決めたが、最後の救命ボートから「あと二人乗れる」という声がかかり飛び乗つて助かった。しかし、事故直後に國內からの「反戦」の声が渦巻き、アメリカは国としての戦闘意欲を失つた。

日本は日露戦争に勝ち、急速に国力を高め、世界一の仲間入りをしたばかりだった。西欧諸国から反感を買つて、日本人に対する偏見が生んだ悲劇だった。

●地球は青かつた

これは、一九六一年（昭和三十六年）に宇宙船ボストーク一号に乗り込んだユーリ・ガガーリンが言つたあまりにも有名な言葉だ。彼は一時間四十八分で地球を一周し、サラトフ近郊の農地に帰還した。我々が生きている地球は青く美しいのだと世界中の人が感動し、認識した瞬間だった。

（編集 三年 清水あゆみ）



2001.2.28

冷たく甘い優勝の味

百人一首クラスマッチ

H13.1.18・19

3—4 伊藤由布子

優勝	3—4
準優勝	1—7
第3位	2—7
第4位	2—6

「絶対、優勝しようね」そう皆と誓いつて迎えた百人一首クラスマッチ。私達三年四組は、この日の為に、一週間位前から放課後、毎日練習を積み重ね、頑張ってきた。初戦は一年二組。二回程練習試合をしたこともあるチームだ。相手側も必死だったし、私達もまた、勝ちたいという勢いで戦っていたので、札を取り時、お互いの頭がゴツンとぶつかり合うこともあった。結果は私達の勝利だった。

「まずは一回戦クリア」そうホッとしていると、一年二組から「俺達の分も頑張って優勝して下さい」と思いがけない言葉が。嬉しかった。「あら、何がどう。優勝狙ってるから頑張るよ」と私達は新たに気合いを入れ直したのだった。そして遂に優勝決定戦。なんと対戦相手は一年生だった。私達には意地があった。

会場が静まり、緊張感が高まつた。「しらつゆに」という読み手の声と一緒にバシッとした札を先取りしたのは我三年四組チームだった。一枚一枚取るごとに周りの応援が熱くなっていくを感じ、それを見て私を含め、メンバーも波にのることができた。私達は負けなかつた。最後の札

も波にのることができた。私はこれまで、この日の為に、一週間位前から放課後、毎日練習を積み重ね、頑張ってきた。初戦は一年二組。二回程練習試合をしたことがあるチームだ。相手側も必死だったし、私達もまた、勝ちたいという勢いで戦っていたので、札を取り時、お互いの頭がゴツンとぶつかり合うこともあった。結果は私達の勝利だった。

「優勝」とい

う二字も

手にする事ができたのである。

私としては、よう

やくつかんだ喜びだつた。「みんな応援ありがとう」そう言って食べた

高校図書館を行われました。雪のため、交通手段がとれなく遅れた人や、やむなく欠席という人もいて参加者は五十名ぐらいでした。



三校合同 「百人一首を楽しむ会」

H13.1.6 於 米商

札が飛ぶ! クラブの実演



九里・商業・工業の三校合同「百人一首を楽しむ会」が、一月六日大変な大雪の中商業高校図書館を行われました。

私は、百人一首を授業の中で一回経験しただけだったの

で、札がとれるかどうか不安でした。最初はなかなか取れませんでしたが、半分くらいになつてから自分の前に並んで札も読まれるようになつたので張りつめた気持ちになりました。

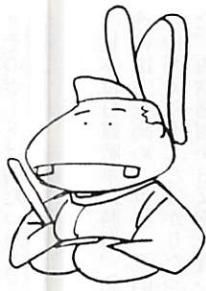
私は、高校に入つて初めて百人一首のことを知り、やつていううちにだんだん覚えて楽しくなりました。そし

て、自分の取れる札も増えることはスリルに富み、嬉しいことだと思えるようになりました。

この会で私が一番驚いたのは、商業の百人一首クラブの人達の競技カルタの実演です。読み手の人が読むとすぐ札を手で飛ばすその迫力にびっくりしました。私は自分が所の所に札が飛んでくるんじゃないかと、緊張しました。

最後にもう一ゲームを行いました。またゆっくりとしたペースに戻り、のんびりとや

(二一五 金子真由美)



本喰い虫の弁明

聲こゑを聞く

内なる東北の



2-5 松尾 美香

を見てしまうからだ
と赤坂さんはいつも
います。単なるお国

図書館

貸し出しベスト10

H 12.4~H 13.1.23まで

1位	2-5	松尾 美香	106冊
2位	2-6	佐久間 茗	97冊
3位	1-5	金子真由美	92冊
4位	3-4	清水あゆみ	91冊
5位	2-2	渡部 健一	73冊
6位	1-8	竹内 瞳	54冊
7位	3-4	藤崎 智	51冊
8位	3-5	鈴木 麻生	42冊
9位	2-6	原川 美保	40冊
10位	3-3	俣川 順子	35冊

今年読んだ本で、とりわけ印象深かったのは、赤坂憲雄著の「東北学へ」です。私達の住む東北は、一面の田園の田舎。不作に悩むときもある「陰のある」辺境というイメージがあります。深い雪にひつそりと息をひそめる風景が東北のすべてのようにテレビでは扱い、田舎者といえども考へがちです。故郷を知らず知らずマイナスに考えてしまうのは「都が中心」という中央からの視点で自分達

東北がいいと語るのではなく、いくつも日本として、一つ一つの独立した文化があるのだという視点を持つべきだというのです。私は、中央から発信された東北の姿と、自分が感じる東北の姿との違いにもどかしさを覚えることがあります。深い雪はとても新鮮でした。「もう一つの東北から」という副題の中に、著者の鋭く強いメッセージを感じました。また、近年相次いで歴史の発見の中には、豊かな東北がかつて存在したこと

いう文はとても新鮮でした。北から」という副題の中に、著者の鋭く強いメッセージを感じました。また、近年相次いで歴史の発見の中には、豊かな東北がかつて存在したこと

いう文はとても新鮮でした。北から」という副題の中に、著者の鋭く強いメッセージを感じました。また、近年相次いで歴史の発見の中には、豊かな東北がかつて存在したこと

いう文はとても新鮮でした。北から」という副題の中に、著者の鋭く強いメッセージを感じました。また、近年相次いで歴史の発見の中には、豊かな東北がかつて存在したこと

日本全国 平等に雪よ降れ

2-1 伊藤 大輔

雪について

エッセイ

日本全国

平等に雪よ降れ



雪。東北に住む人にとってはこの上なく邪魔ものである。しかし雪の殆どふらない関東・関西に住む人からしてみれば雪は白く美しいといふイメージがあるらしい。江戸時代の俳句でも雪は美しいと詠んだ俳句が殆どであり、雪

雪は結晶ということはもう解りきっている。降る様はきれいだが積もるとコンクリート並に硬く重くなる。雪の中に十分間埋まつてると生存の可能性が非常に低く、それによる死亡者も多い。今年この雪の重さでポボロの屋根が抜けている。非常に怖い。

いつ我家にそのようなことがおこらないともかぎらない。雪下しも面倒だが潰れるよりは良い。

雪は見ただけではとても美しいがそういう地域にすんでいると雪は邪魔でしかないのだ。今年は特にそうだ。雪国に生まれたから仕方は無いといふはいえ南に住む人をうらめしく思う。個人的には日本全国に平等に雪が降つてほしい。

そんなことなる訳ないのだが

例えるならビールを美味しいと思って飲んでいた小学生みたいなものだろう。経験した者にしか解らないであろうが雪は非常に邪魔。最近改めて実感する。

はごくわずかしか無い。イメージと現実ではかなりの差がある。苦いと感じた小学生みたいなものだろう。経験した者にしか解らないであろうが雪は非常に邪魔。最近改めて実感する。

雪は見ただけではとても美しいがそういう地域にすんでいると雪は邪魔でしかないのだ。今年は特にそうだ。雪国に生まれたから仕方は無いといふはいえ南に住む人をうらめしく思う。個人的には日本全国に平等に雪が降つてほしい。

そんなことなる訳ないのだが

図書館だより

(4)

2001.2.28

この小説は神々が地上を歩いていた古代の日本「豊葦原」、光と闇がせめぎあう戦乱の世を舞台にした「水の乙女」と「風の若子」の冒險と成長、そして運命の恋を描いている。村娘狭也の幸せの日々に、影を落とすのは昔の記憶。「鬼」に追われた六歳の自分。十五になつた祭の晩に、「鬼」は狭也に言つた。「お前は『闇』の氏族の巫女姫だ」と。そして、憧れの「輝」の宮の神殿で縛められていた「輝」の末子の稚羽矢と、狭也が出会つて、二人の運命が変わつていく。

普通の村娘だった狭也がいろいろな人に出会い、強く優しい心を持つた少女になつていく。狭也がそうなつた一番の理由は、稚羽矢の存在だ。稚羽矢と一緒にいて狭也は、彼のことをいつも思うようになつた。

この小説は神々が地上を歩いていた古代の日本「豊葦原」、光と闇がせめぎあう戦乱の世を舞台にした「水の乙女」と「風の若子」の冒險と成長、そして運命の恋を描いている。村娘狭也の幸せの日々に、影を落とすのは昔の記憶。「鬼」に追われた六歳の自分。十五になつた祭の晩に、「鬼」は狭也に言つた。「お前は『闇』の氏族の巫女姫だ」と。そして、憧れの「輝」の宮の神殿で縛められていた「輝」の末子の稚羽矢と、狭也が出会つて、二人の運命が変わつていく。

この小説は神々が地上を歩いていた古代の日本「豊葦原」、光と闇がせめぎあう戦乱の世を舞台にした「水の乙女」と「風の若子」の冒險と成長、そして運命の恋を描いている。村娘狭也の幸せの日々に、影を落とすのは昔の記憶。「鬼」に追われた六歳の自分。十五になつた祭の晩に、「鬼」は狭也に言つた。「お前は『闇』の氏族の巫女姫だ」と。そして、憧れの「輝」の宮の神殿で縛められていた「輝」の末子の稚羽矢と、狭也が出会つて、二人の運命が変わつていく。

1-3
近野 真梨果

私の好きな主人公

書物の不思議
(その9)

子供の本の誕生

一五世紀グーテンベルクによる印刷機の発明によって本が出来、人々は文字の読み書きが出来るこことを強く望むようになった。学校教育が義務化され、一〇〇年ほど前の子供たちは、粘板岩でできた石板(小さな黒板)をもつてチョークや石筆で字を習つた。

子供の本は文字の教科書や、道徳の教育物語などからはじまり、ヨーロッパでは二五〇年前頃から(日本の江戸時代)アルファベットの本、詩歌、童話の本が出版されるようになった。飛び出す絵本は一九世紀にはじめて表われて、六十年前には(日本の昭和十年代)非常に多く出版された。

子供の本の最高の古典とされる、ルイス・キャロルの「ふしぎの国のアリス」は、一八六五年に出版された。

心痛む 狭也の恋

荻原規子 著

そらいろまがたま さや 「空色勾玉」の狭也

稚羽矢が狭也をつれもどしに黄泉の国へ行く場面がある。私はこのシーンが一番好きだ。狭也の稚羽矢に会えてうれしいという気持ちがよく伝わってきた。私も狭也と同じ位稚羽矢が好きだから一緒に喜んだ。狭也是自分の気持ちに素直に生きていた。だから私は狭也に魅せられ、気持ちも通じたのだと思う。

時々稚羽矢がいなくなると、狭也はとても不安になつた。そして稚羽矢が何もなかつた成長、そして運命の恋を描いている。村娘狭也の幸せの日々に、影を落とすのは昔の記憶。

狭也の恋心に私も心が痛んだ。いつの間に私は狭也の気持ちと一緒になつていて、

稚羽矢が狭也をつれもどしに黄泉の国へ行く場面がある。

私はこのシーンが一番好きだ。狭也の稚羽矢に会えてうれしいといいう気持ちがよく伝わってきた。

私も狭也と同じ位稚羽矢が好きだから一緒に喜んだ。

狭也是自分の気持ちに素直に生きていた。だから私は狭

也に魅せられ、気持ちも通じたのだと思う。

委員会クラブですね

活動を振りかえって

三一五 山水 深雪



アリスとドードー

三役が決まったのは一昨年の十二月です。本当に私は達で大丈夫だろうかと不安になりました。しかし、先輩方から引き継いだ初めての委員会でその心配はなくなりました。委員長も、もしかんだ言いながらうまく委員会を進めていったのです。う一人の副委員長もなんだいざ始まるとなみんなきつち

う一人の副委員長もなんだいざ始まるとなみんなきつち

今は、「委員会」というより「クラブ」みたいだつた気がします。それは、委員一人一人が豊かなキャラクターをもつていて自己中心的ではないからだと思います。私自身、この委員との会話からいろんなものを吸収しました。後輩の委員のみなさんにも、委員の仕事が終った時、「図書委員でよかつた」と思えるような活動をしていくほしいと思います。

今日は作業の開始の遅れと二年生のみのため、とても慌ただしい編集となりました。二十一世紀初の図書館だよりです。楽しんで隅々まで読んでもらければ幸いです。

編集後記

(編集二年 菊地 博子)

(松尾 記)